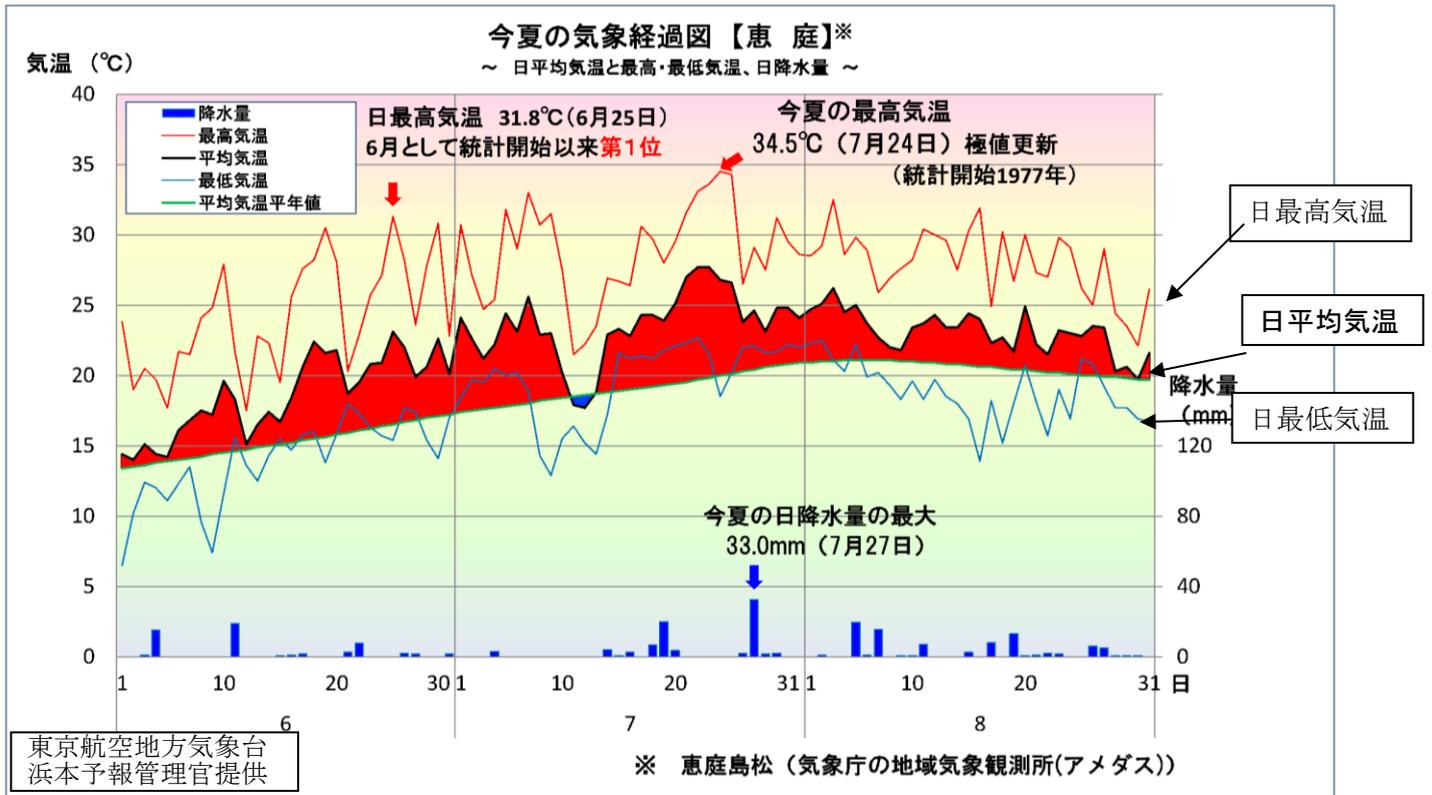


# 季節のまとめ

【今年の夏を振り返って】（令和7年6月～令和7年8月）

防災士 清水 為一



## 【概況】

今年の夏は、グラフで見られるように、今までに経験したことがないような、猛暑（本来の定義と異なるが、実感として）であった。と言えます。

## 月別経過

### 6月

上旬」北海道付近を低気圧が通ることが多く湿った南寄りの風の影響を受ける日が多かったため、曇りや雨の日が多かったが、気温は高めに経過した。

中旬」高気圧に覆われやすく晴れた日が多く南から暖かい空気が入り気温はかなり高かった。

下旬」低気圧が北海道の北を通ることが多く、湿った南寄りの空気が入りにくく気温はかなり高かった。

*日最大10分間降水量	5,0 mm	1日	多い方の第7位
*日最高気温	31,3°C	25日	高い方の第1位 記録更新
	30,8°C	29日	” 第3位
	30,5°C	19日	” 第4位
*日最低気温	18,0°C	21日	高い方の第5位
	17,7°C	26日	” 第7位
	17,4°C	27日	” 第10位

\*月平均気温 18,5℃ 高い方の第1位 記録更新

7月]

上旬]] 偏西風が北に蛇行し、低気圧や前線の影響を受けにくく暖かい空気に覆われたため、気温はかなり高かった。

中旬]] 前線や暖かく湿った空気に伴う降水域が日本海から侵入しやすかったため、降水量は多かった。

下旬]] 高気圧勢力圏内となりやすかったため、晴れた日が多かった。また、暖かい空気に覆われやすかったため気温はかなり高かった。

\*日最大10分間降水量 5,0 mm (27日) 7月として多い方の第8位

\*日最高気温 34,5℃ (24日) // 高い方の第1位 記録更新

\*日最低気温 22,7℃ (22日) // 第5位

\*月平均気温 23,6℃ // 高い方の第1位 記録更新

8月]

上旬]] 低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。気温は引き続きかなり高かった。

中旬]] 偏西風が北海道の北を流れたため、高気圧に覆われ晴れた日が多く、気温も高かった。

下旬]] 低気圧や前線が数日の周期で通過したため、曇りや雨の日が多かった。

\*月降水量 86,0 mm 8月として少ない方の第6位

\*月平均気温 23,1℃ // 高い方の第4位

まとめ

今夏の特徴として、日本の夏の平均気温偏差は、昨年、一昨年の記録を大幅に上回り、3年連続で最も高い記録となりました。恵庭でも7月24日には日最高気温が34,5℃、7月の月平均気温が23,6といずれも歴代記録を更新しました。

この要因として次のようなことが指摘されています。

○太平洋熱帯域の西部で海水温が高く、アジアモンスーン域の積乱雲の活動が早くから活発でした。この影響により上空の偏西風（亜熱帯ジェット気流）が平年より北寄り流れ、上空のチベット高気圧が日本付近に張り出しました。また、フィリピン東海上の積乱雲の活動が極めて活発で、日本付近への太平洋高気圧の張り出しを強めました。

○日本付近は、チベット高気圧と太平洋高気圧が重なった背の高い高気圧に覆われ、下降気流が卓越して晴れて気温が上がりました。

○恵庭では、6月と7月に日最高気温が歴代1位となるなど、ここ数年で最も暑い夏になりました。

**\*\*今夏の高温に対する地球温暖化の影響等\*\***

((文部科学省気候変動予測先端研究プログラムと気象庁気象研究所の合同研究チームによる速報的な評価))

○地球温暖化が無いと仮定した場合、今夏の高温はほぼ発生しない

○すでに温暖化が進行している2025年現在においても、今夏の高温は数十年に一度の発生頻度である。

○地球温暖化を背景として上昇してきた気温の上昇率が禁煙増加している。日本の夏平均気温偏差は、2023、2024、2025年の3年連続で過去最も高い記録となり、その偏差は、直近、30

年（1995～2024年）の上昇率を当てはめた数値を大きく上回っている。

令和7年夏の高温と少雨の要因の模式図

